

6月14日は 世界献血者デー！

毎年6月14日は世界保健機関(WHO)によって定められた「世界献血者デー」です。この日は血液という「いのちを救う贈り物」をくれる献血者のみなさまに感謝するとともに、血液製剤を必要とする患者様のために献血が欠かせないことを知ってもらう日になっています。



Blood Information

ブラッド・インフォメーション

献血月刊情報 2025年5月号

〔発行元〕岩手県赤十字血液センター献血推進課
〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳6-1-6
TEL: 019-637-7201

CONTENTS

- ✓「赤十字ふれあいフェスティバル」が開催されました！
- ✓知られざる「針先」のヒミツ

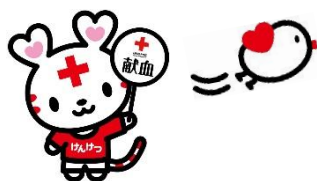
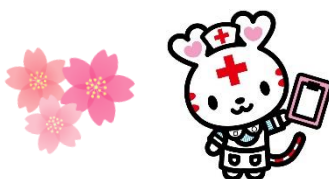
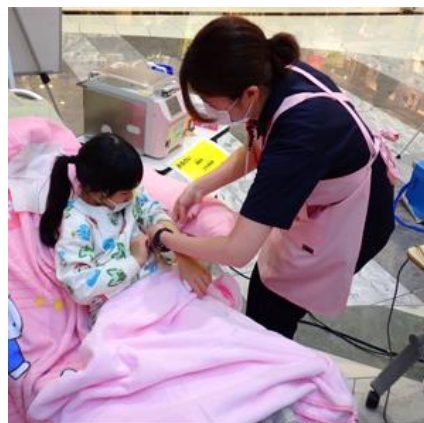
TOPICS

「赤十字ふれあいフェスティバル」が開催されました！

5月10日（土）イオンモール盛岡にて、赤十字ふれあいフェスティバルが開催されました(^o^)*

県内の赤十字施設が一堂に会し、皆様に日頃の活動を体験していただきました。岩手県赤十字血液センターでは献血模擬体験を行い、実際の献血の流れを皆様に体験していただきました。

また、岩手県献血マスコットキャラクター「ココロンちゃん！」との記念撮影も行いました。沢山のご参加、誠にありがとうございました☆



献血で使われる針の太さはG（ゲージ）という単位で表されます。海外で使われる全血献血用の針は、ほぼ爪楊枝と同じ太さの16G。日赤では一段階細い17G（外径1.4mm）を使っていたが、数年前からはさらに細くなり18G（1.2mm）を採用しています。

世界的に見ても細い針で、針先が挿入される際の切開部を小さくするだけでなく、献血者の恐怖心の軽減にも配慮しています。針の先端部分は、“刺す”というよりも刃物のような鋭さで小さく切り開き、するりと皮下に入り込む形状。皮膚への引っかかりを感じさせない設計として2段階になっている角度にもこだわりがあります。安全面の配慮では、先端の刃面が長いと挿入時に血管を傷つけてしまう恐れがあるため、刃面の短いタイプを採用しています。

一方で、針は細くなりましたが細いストローで大量のジュースを早く飲むのが難しいように、献血でも細い針では抵抗が増えて採血のスピードが落ちてしまうという問題がありました。そこで、針自体の長さを少し短くし、針先端部に開口部「バックアイ」を設置。針が短くなったことで抵抗が減り、バックアイのおかげで針先から取り入れる血液量が増えた上に、血管壁に針の背面がピタッと張り付く現象がなくなりました。献血時間も短くなり、献血者の方の負担も軽くなっています。このように最新の採血針は、革新的な進歩を遂げているのです。

【針先端】



先端部は刃物のような鋭さでするりと皮下に入り込むようにできており、より抵抗が少なく挿入できるよう途中で角度を変えている

【バックアイ】



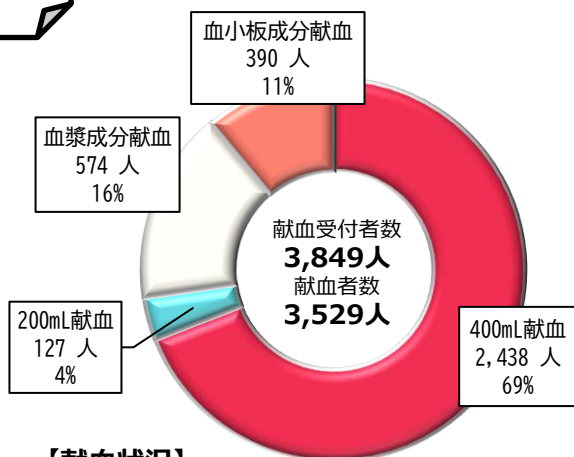
バックアイができる前は、血管壁に針の背面が張り付いて採血が止まってしまうことが多く、その度に看護師が針の向きを変えていた

日本赤十字社ホームページ【献血まるわかり辞典】vol.3「採血針」 https://www.jrc.or.jp/about/publication/news/20220609_026443.htmlより引用

Data

岩手県の献血・供給状況（4月）

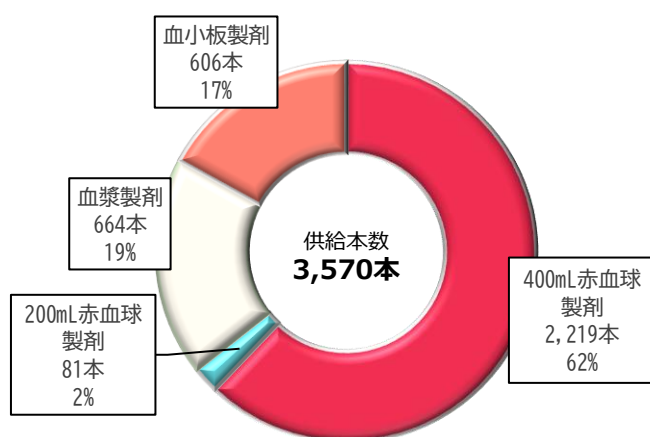
岩手県の献血状況



【献血状況】

全血献血は200mL換算で**5,003本**、400mL献血率（400mL献血者数／全血献血者数）は**95.0%**でした。

岩手県の供給状況



【供給状況】

血漿製剤は血漿成分献血からだけではなく、200mL献血や400mL献血からも作られています。

ホームページでも閲覧できます。

岩手県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/iwate/index.html>

Blood Information
ブラッド・インフォメーション
献血月刊情報